

特別賞

審査員奨励賞

「山火事跡地 緑の再生プロ

平成14年(2002年)に岐阜市及び隣接する各務原市^{かかみがはら}で起こった大規模山林火災。岐阜県遊技業協同組合傘下の岐阜市娯楽遊技業振興協同組合をはじめとする関係4団体は、その被害からの再生を図る「緑の山再生プロジェクト」を支援。地元市民と手を取り合いながら継続的に進めてきた取り組みは、今“豊かな緑の再生”というかたちで着実に実を結んでいる。

● 岐阜県遊技業協同組合
----- 組合員数 166人



岩本 栄植 理事長

当組合が特別賞を賜ったことは大変光栄であり、感謝申し上げます。この活動では、金額の多寡ではなく、山火事跡地で地域住民と一緒に植樹活動を継続したという共同作業の成果を評価していただいたと思います。今後も“自分たちで汗をかく”という思考を大切に、社会貢献活動に取り組んでいきたいです。



審査員奨励賞

選考理由



社会貢献活動審査委員会 委員
山下 頼充 氏

岐阜市・各務原市の境で発生した岐阜県内で過去最大規模の山林火災。岐阜遊協傘下の4団体は、地域を挙げての「再生プロジェクト」に対して、迅速かつ積極的な支援を行いました。整地作業費や苗木購入費の支援のほか、各ホールからの植樹ボランティア参加等、地域住民とともに5年間で見事に「緑の山」を再生した素晴らしい地域貢献活動です。

岐阜県史上最大規模の山林火災

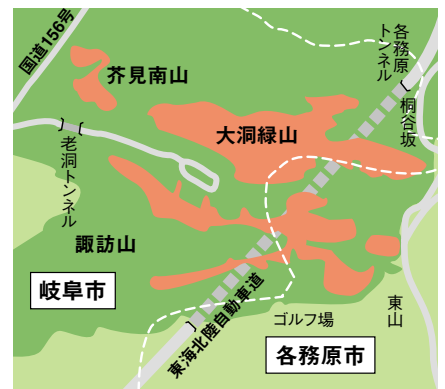
平成14年(2002年)4月5日、岐阜市東部の住宅地に近接した山林からの出火は、またたく間に燃え広がった。岐阜市と各務原市の山林合わせて約410ヘクタールを焼き尽くし、鎮火までに27時間を要した。この山林火災は、岐阜県内で過去最大規模のものとして、人々の心に、そして山々の緑に深い傷跡を残した。

岐阜県遊技業協同組合・岐阜市娯楽遊技業振興協同組合の専務理事を務める長尾健二氏は当時を振り返る。

「岐阜市内が燃えてしまうのではないかと、思わせるほどの大規模な火災でした。すべてが燃え尽きた後の真っ黒に焼け焦げた無惨な山の姿は、今も忘れられません」

岐阜県は、対策のために即時「緑化推進委員会」を立ち上げた。委員会のメンバーである岐阜新聞が主幹するかたちで、山に緑を取り戻すために定期的に植樹を行う活動「緑の山再生プロジェクト」が発足。このプロジェクトを支援するため、真っ先に名乗りを挙げたのが岐阜市・各務原市の遊技業組合であった。

山林火災で焼失した地域



■ 山林地区 ■ 焼失部分

市民とともに歩んだ 5年にわたる植樹活動

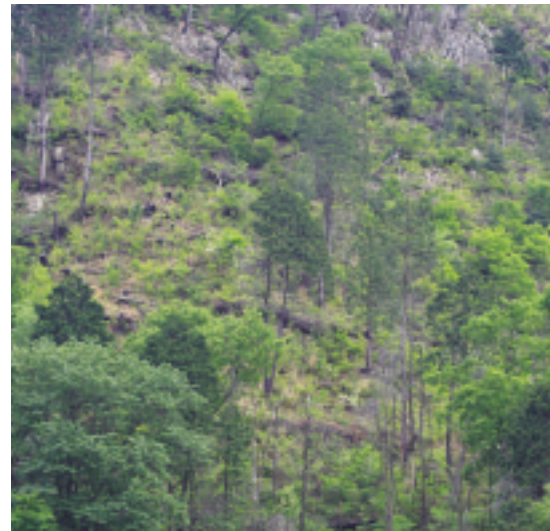
焼失した緑を再び、という「緑の山再生プロジェクト」の呼びかけに呼応したボランティアの数は、予想を遙かに上回るものだったという。同プロジェクトは5か年計画を立ち上げ、まずは市民ボランティアによる年2回の植樹活動をスタートさせた。

岐阜県遊協傘下の「岐阜市娯楽遊技業振興協同組合」「各務原市遊技場組合」「財団法人 岐阜社会福祉事業協会」「各務原市福祉事業協会」の関係4団体は、このプロジェクトを全面的にバックアップ。植樹作業の要となる整地作業費の支援をはじめ、苗木・植樹道具等の購入費支援、植樹ボランティアへの冷たい飲み物の差し入れ等の後方支援をはじめ、岐阜市及び各務原市のホールからは、5年間で計80人余が毎回植樹ボランティアに参加し、市民と一緒に植樹活動に汗を流した。

また、県下ホールのオーナーに訴えかけ、プロジェクトへの募金を呼びかけるポスターを各ホールに掲示。地域社会のために、遊技業として貢献できることを実践し、実質的かつ継続的な支援に努めた。

そして、その活動の成果は、誰もが思いもよらない早さで現れることとなった。各務原市遊技場組合の組合長、玉川健次氏は次のように語る。「当初、被災した山林の回復には20年以上かかると見込まれていました。ですが、植樹活動と自然そのものの回復力によって、今では焼失跡もわずかとなり、緑の再生は着実に進んでいます。市民の方々と手を取り合って進めてきた取り組みがこの成果をもたらしていると考え、活動の意義を実感しています」

岐阜県遊協の支援を受け、地域とその自然を愛する一人ひとりの手によって植えられた木々は逞しく成長を続け、近い将来、以前にも増して豊かな緑を取り戻すに違いない。



平成19年(2007年)現在の山林火災跡。植林した木々が逞しく成長していることが分かる



山に焼失の跡を残す住宅地・高天ヶ原の様子。目と鼻の先まで火災が迫っていたことがうかがえる



岐阜県遊技業協同組合/
岐阜市娯楽遊技業
振興協同組合
専務理事
長尾 健二 氏



各務原市遊技場組合
組合長
玉川 健次 氏

「緑の山再生プロジェクト」
への募金を呼びかける
ポスター



社会貢献活動の現場より 「市民と一体になって、自分たちの手で再生させることの意義」



財団法人 岐阜社会福祉事業協会
理事長
市橋 勝彦 氏

かつて黒焦げになった山は、多くの人々の手により再生を遂げ、今や岐阜の緑化運動のシンボルとなりました。正直なところ、植樹活動というものは、一般市民が汗水流して行うより、プロの方に依頼した方がより効率的でしょう。ですが、県土の8割以上を森林が占める岐阜県においては、県や岐阜・各務原の両市民、地元企業、そしてわれわれが一体となって、自分たちの力で山を甦らせることにこそ意味がありました。

また、われわれにとっても、これまで各組合単位で様々な活動は行っていましたが、この「緑の山再生プロジェクト」を通じて、皆が力を合わせて大きな社会貢献活動を成し遂げることができた、という点で意義があったと考えています。この活動をきっかけに、今後も県下の遊技業組合関係者が一丸となって地域社会に貢献していけたら、と思います。